

【特別支援学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている（80％以上）
B：おおむね達成できている（60％以上80％未満）
C：やや不十分である（40％以上60％未満）
D：不十分である（40％未満）

学校名		佐賀県立大和特別支援学校													
1	前年度 評価結果の概要	・「児童生徒一人一人に応じた自立活動の指導の充実」、「職員の特別支援教育に関する専門性の向上」、「児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動」、「業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減」、「ICTを活用した児童生徒一人一人が「分かる、できる」授業づくり」の5項目が80％(B判定)となり目標を達成できなかった。 ・自立活動の時間の指導については、指導形態の工夫や指導内容・指導方法を学部内で共有し指導に活かしていく。 ・職員の特別支援教育の専門性の向上を目指して、一人一枚のポスターでの研究発表において意見交換を行い研究を深めた。今後は、研究課題に向けて、アンケートを集約し、検討、協議の上、テーマや方法を決めていく。 ・「思いやりや豊かな心を育む教育活動」では、今後も交流及び共同学習は継続しながら計画、実施していく。 ・業務効率化・平準化を図るとともに、定時退勤日を設定することにより、時間外在校時間を縮減し、年次有給休暇の取得を積極的に働きかけていく。 ・各学部で高性能モニタの活用方法やTeamsやOneDriveの活用方法の研修に力を入れたり、他校の活用事例を積極的に紹介したりして、ICTを苦手としている教員を中心に研修や紹介を行っていく。													
2	学校教育目標	「たくましく自立し、積極的に社会に参加する人間の育成」 ・子ども一人一人のニーズに応じた最適な対応に努めることにより、子どもが自分の力を発揮しながら自立的・主体的に取り組む姿を実現し、将来の自立的・主体的な地域生活へつなげていく。													
3	本年度の重点目標	① 自立活動と各教科等の指導について整理し、特別支援学校の教育力向上を図る。 ② 児童生徒の自立に向けた教育の専門性向上について、共に学び、共に考える。 ③ 共生社会の実現に向け、人権を尊重し、命を大切にする教育に取り組む。 ④ 職員の組織力向上と業務改善を推進し、互いの成長を実感できる学校を目指す。													
4 重点取組内容・成果指標		中間評価					5 最終評価					主な担当者			
(1)共通評価項目															
		重点取組		具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言					
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)													
●学力の向上	○児童生徒一人一人に応じた自立活動と各教科等を関連させた指導の充実	○(保護者成果指標)「子どもの自立活動の目標や活動状況について理解している」と回答した保護者の平均が80％以上 ○(職員成果指標)「自立活動の指導目標、指導内容を明確にして、時間の指導と各教科等との関連を意識した指導を行った」と回答した教職員の平均が80％以上		・保護者懇談会で、個別の指導計画を提示し、活動状況を確実に伝える。 ・自立活動の時間の指導を計画的に実施し、内容の充実を図る。							教務部				
	○職員の特別支援教育に関する専門性の向上	○(保護者成果指標)「学校生活や授業を通して、子どもが生き生きと活動し成長を感じられている」と回答した保護者の平均が80％以上 ○(職員成果指標)「主体的・対話的で深い学びを意識しながら授業づくりを行った」と回答した教職員の平均が80％以上		・日々の授業において個に応じた指導や支援を行う。 ・個人懇談や授業参観、連絡帳などを通して学習活動や成果について広く理解を図る。 ・授業づくりについての研修会を行い、職員の専門性を高める。 ・月1回研修日を設け、各学部の研究グループで授業づくりを行う。 ・授業参観期間を設け、学部間で授業を共有し、改善につなげる。							教育研究部				
	○進路指導とキャリア教育の充実	○(保護者成果指標)児童生徒にとって、「卒業後の生活に必要な力をつけるための教育が行われている」と回答した保護者の平均が80％以上 ○(職員成果指標)「卒業後の生活に必要な力をつけるための教育に努めている」と回答した教職員の平均が75.0％以上		・学部別に保護者への進路講話や進路だより、進路パンフレットなどの情報提供のための資料の充実を図る。 ・キャリアパスポートの活用状況を確認し、担当職員でフィードバックする場を設ける。								進路指導部			
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	(学校) ●(保護者成果指標)「お子様の思いやりや豊かな心を育む教育活動が実施されている」と回答した保護者の平均が80％以上 ●(職員成果指標)「互いに助けあったり協力したりする学習を行った」と回答した教職員の平均が80％以上 (寄宿舎) ●(保護者成果指標)「子どもが、自分や周りの仲間を大切にし、思いやりや心や協力する気持ちを育て、楽しく生活できる支援がされている」と回答した保護者の平均が85％以上 ●(職員成果指標)「仲間を大切にし、思いやりや心や協力する気持ちを育て、楽しく生活できる支援を行った」回答した職員の平均が85％以上		(学校) ・特別の教科道徳や特別活動、各教科等の授業で思いやりや豊かな心を育む教育活動の充実を図る。 ・交流及び共同学習や学校行事等で、他者と関わる場面を設定したり、多様な体験活動を実施したりする。 (寄宿舎) ・集団生活を送る中で、自治活動や季節行事・当番活動などを通して、協力する気持ちや思いやりやの心を育てる。 ・自分や周りの仲間を大切にし、お互いを理解するように、ミーティングなどを通してルールやマナーを身に付ける。							学習部 寄宿舎				
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●学校は生徒間トラブルについて、保護者へ情報提供や解決に向けた具体的な手立てを示し、迅速な対応を取っていると回答した保護者の平均が80％以上 ●人権を大切にする言葉かけや授業に取り組んだと回答した教職員平均が80％以上		・生徒間トラブルについては、すみやかに学年主任、学部主事、生徒指導主事、管理職に報告し、具体的な解決手段や手立てを確実にに行い、保護者に経過観察を伝える。 ・年に2回以上、人権に関する授業実践やいじめ、人権研修を計画し、実施する。							生活指導部				
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生は子どものよいところを認めてくれていると思う」と回答した保護者85％以上 ●「将来の夢や目標をもてるように授業を工夫した」と回答した教職員の平均が80％以上		・児童生徒の自己肯定感が高まるように、できていることを伝えたり、仲間同士で認め合ったりする場面を設定する。 ・児童生徒が「自分は人のために役に立っている」「現在の自分に満足している」「自分はできている」「自分は前向きに挑戦している」と感じることができる授業作りをする。								各学部			
●健康・体づくり	⑤「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」健康を考えて行動できる能力の育成	●「健康に良い食事を知り、家庭や学校で食べよう」と心掛けたり、朝食を毎日食べたりしている」と回答した児童生徒の平均が80％以上		・特別活動、保健体育などの授業や給食指導等における食に関する指導支援の充実を図る。 ・児童生徒へのアンケートを実施する。 ・保健だよりや給食だよりを通して学校での活動を保護者に伝え、家庭との連携を図る。							保健環境部				
●地域支援	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	●支援部だよりや公開研修、巡回相談が役に立ったと回答した地域の学校の平均が75％以上 ●支援の工夫や研修会等への参加を通して地域支援に必要な専門性の向上に努めたと回答した教職員の平均が75％以上		・支援部だよりの発行や公開研修会を年に2回実施する。 ・地域の学校の要請に応じて巡回相談を実施する。 ・児童生徒の実態に応じて支援を検討し実践する。 ・校内外の研修会や関連記事等の情報を発信し、専門性の向上を図る。							地域支援部				
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●時間外在校等時間の削減と年次休暇の取得率の向上	●「月の時間外在校時間44時間以内の教職員が95％以上、かつ年間20日の年次休暇のうち、半期7日間以上の年次休暇を取得した」と回答した職員が75％以上。		・各主事や主任が中心となり業務の精選を行い、効率化を図る。 ・定時退勤日を設け、教職員への働きかけを行う。 ・ノーマル会議週間や長期休業中での年休取得を推進する。							管理職				
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目															
		重点取組		具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		主な担当者			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)													
○学校経営方針	○教育目標に即した教育の実践	(学校) ○「大和特別支援学校に入学させてよかった」と回答した保護者が85％以上 (寄宿舎) ○「大和特別支援学校の寄宿舎に入舎させて良かった」と回答した保護者が85％以上		(学校) ・子どもや保護者の気持ちを受け止め、子どもが今日の学び・学校生活に満足し、明日の学び・学校生活を期待する教育活動を実施する。 ・子どもや保護者の気持ちを理解し受け止め、安心・安全な生活を送る中で、社会生活のスキルや主体的に活動できる力を身に付け、活動を楽しみにできる支援を行う。							管理職 寄宿舎				
○ICT活用教育	○ICTを活用した児童生徒一人一人が「分かる、できる」授業づくり	○(保護者成果指標)「ICTを効果的に活用したことで、こどもの分かる、できるが増えた」と回答した保護者の平均が80％以上 ○(職員成果指標)「ICTに関わる研修や資料の回覧等で、ICTを活用した授業作りや生徒支援に生かすことができた」と回答した教職員の平均が80％以上		・ICT機器を効果的に使用できるように、生徒の実態に合わせて、電子黒板や大型モニター等を、活動場所に配置し、iPadまたは学習用PCを効果的に活用する。 ・校内の研修で、授業等で効果的にICTを活用できるような実践事例の紹介や生徒の実態に応じて活用できるような事例を紹介する。また、掲示板や回覧等でICT活用に関わる資料を紹介する。							教育情報部				
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育															
5	総合評価・次年度への展望	・ ・ ・													